

令和6年度第3回 国土交通省大阪航空局 総合評価等に関する委員会
審議概要

開催日及び場所	令和6年11月19日(火) (大阪航空局 会議室B・C)
委員	委員長 古阪 秀三 (立命館大学客員教授) 委員 鎌田 敏郎 (大阪大学大学院工学研究科教授) 欠席 委員 倉本 宜史 (京都産業大学経済学部教授)
内容	<p>審議事項</p> <p>1) 「神戸航空交通管制部空気調和設備工事」 ・技術提案の個別評価項目及び評価結果の妥当性</p>
委員からの 意見・質問	意見・質問 別紙【議事要旨】のとおり
委員会による具 申内容	1) について審議内容を了承

【議事要旨】委員からの主な意見・質問

審議事項 1)「神戸航空交通管制部空気調和設備工事」

(質問) 工事实績に記載の評定点 80 点ということですが、満点、合格点は何点か。

80 点は高得点と捉えてもいいのか。

(回答) 満点は 100 点、合格点は 65 点。当局の基準では高得点。

(質問) 技術提案について、提案 1 は 8 点加点だが、それ以外は標準的な内容だから加点なしということだが、応募者が 1 社しかないからと言って、大阪航空局としては本当にこの程度のレベルに任せてもいいのか。

(回答) 提出された提案は十分にヒアリングを行い評価した上での判断だが、1 つの提案しか点がついてなくて他は加点なしというところは議論があった。

今回の発注の内容は、今ある空調機を更新するもののため、技術を新しく入れる裁量は少なく、技術的な提案は難しいものであり、A 社も頑張って提案してくれている。

当局としても、工事の内容や発注方式が昔に作成したマニュアル等に基づいて行っているの、時代の流れに合わせた見直しを検討すべきと感じている。

(質問) 評価係数は、5 つの提案を受けて、総合的に評価しているのか。

例えば、一般的なレベルかつ、実現可能性が低い提案の場合は、0.5 に下がるのか。

(回答) 5 つの提案を総合的に評価している。

やるべきことを理解しているのであれば 10 点評価でいい。もう 1 歩踏み込んだ技術提案が欲しいときや、工事の内容をあまり理解していないときは 0.5 を掛ける。

今回は一般的で実現可能性もあり、理解された提案であったため、1.0 とした。

以 上